

施設紹介 JCHO札幌北辰病院

「Aquilion PRIME Beyond Editionが導入されて」

JCHO札幌北辰病院 放射線部 木村智茂

今年の2月にAquilion PRIME Beyond Editionが導入されました。道内では初めてのキヤノン印のCT。
これでAquilion 64 (2008年)との2台体制となりました。
それまで使い倒したAquilion 16 (2004年)とも別れを告げた。あのゴーイングメリー号との別れを思い出しながら (ONE PIECE 44巻 430話)。

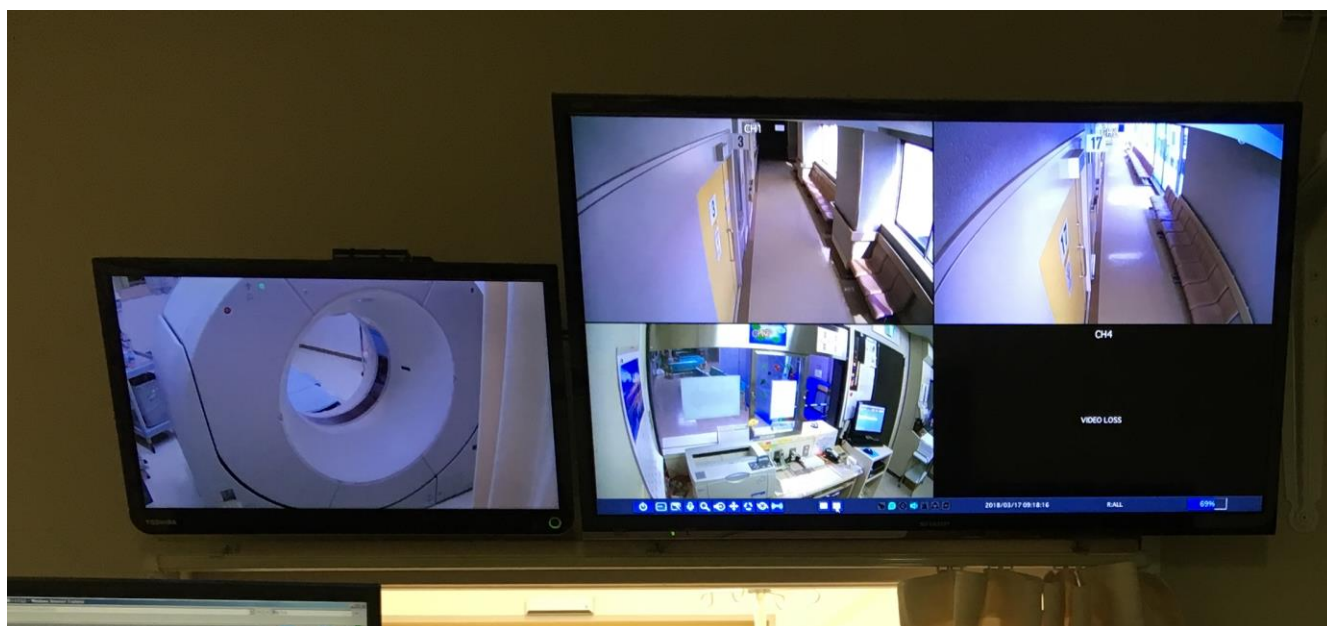
そんな私はCTを運んできた搬入業者のプロの技に見とれていた。設置の時はこんな重たいものをミリ単位で位置調整していた。素晴らしい。



まず、最初に気に入ったのは78cm大開口径ガントリと84mm寝台左右動。
腕が挙げづらい患者さんも肘が当たることもなく入っちゃいました。左右動による調整は快適。より最適なC-FOVで撮影ができる。患者の体をあまり動かすことなくポジショニングができることは素晴らしい。ただまっすぐに寝かすことは大事です。

さらに、画像再構成高速化キットのおかげで再構成の速さも秀逸。64列CTではできなかった撮影中での心電図同期再構成もできる。ありがたい。これ本当にありがたい。

CT室内の他に待合廊下にも監視モニターを設置してもらいました。受付をせず廊下で待ちぼうけの患者さんも減ることでしょう。また、検査室への出入りはボタン式の自動ドアとなり、出入りのしやすさは格段にアップしました。扉が重くて開け難いということもなくなりました。ご高齢者でもほぼ迷うことなくスッと退出できます。

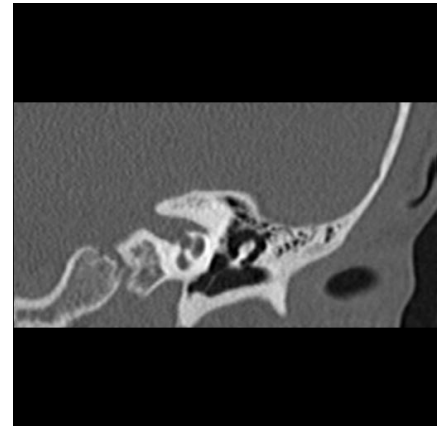


新しいCTの実力も早速実感することができました。

症例1 人工関節術後における感染性膿瘍疑い。SEMARによって膿瘍を確認することができました。放射線科医もSEMARなかったら所見なしって書くと。



症例2 体動のある小児の側頭骨CT。体動を両手で押さえながら動いていない一瞬を狙って0.5mm×80列のVolumeScanで撮影。撮影時間はヘリカルだと14.7秒であるがVolumeScanだと0.5秒となり、撮影線量に関してはまだ検討してはいないが、さしあたりCTDIvolは1/4程度であった。根拠はないがおそらくAIDR3Dの効果も含めると1/10程度まではいけるのではないだろうか。



冠動脈CTについては撮影時間が短縮、造影剤投与量も低減、AIDR3Dによる被曝低減など充ちなアップグレードではあるが、ブレ方のクセはやっぱり64列CTと同様であることも確認できた。

ワークステーションもZIOSTATION2の4台クライアント型となりました。これにより、処理効率がかなりアップ。時間外勤務も大幅に減ることでしょう。

画像データの管理について、各撮影での0.5mm厚のvolume dataを同時に導入されたバックアップサーバへ自動転送して管理しています。容量は実質3.7TB程度であるが、1年ほどは保存されるはず。後になって3D解析の追加などにはとても便利に活用している。同時に導入されたザイオサーバから直接アクセスできるようになっています。

この80列CTはあらゆる事例、検討結果などがすでに散在しているはずであるので、色々参考にしながら、使いこなせるよう精進していこうと思います。